

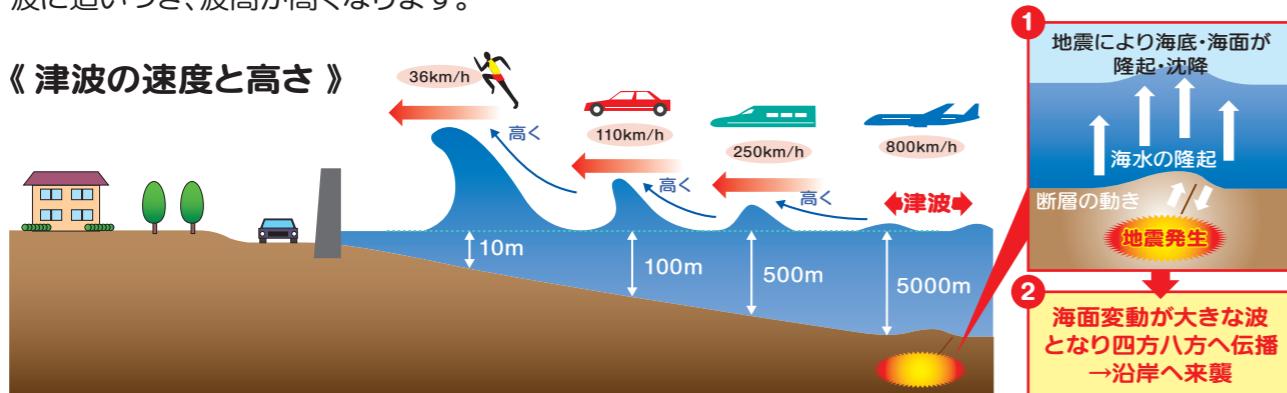
3.津波災害への心得

3-1 津波とは

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、後から来る波が前の波に追いつき、波高が高くなります。

《津波の速度と高さ》



3-2 日南市の津波浸水想定のお考え方

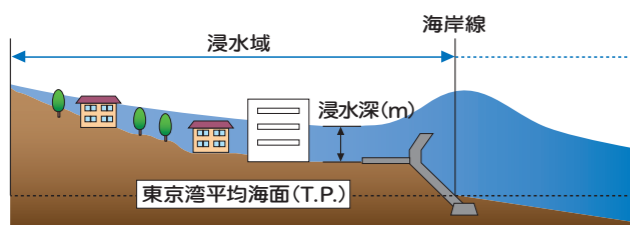
宮崎県は、県内沿岸市町における津波による「浸水域」と「浸水深」を示した津波浸水想定を公表しました(平成25年2月)。津波浸水想定は、今後の津波対策を実施するうえで重要なものです。

内閣府中央防災会議専門調査会では、東日本大震災の教訓をふまえ、次の二つのレベルの津波を想定することを示しています。

- ・最大クラスの津波(L2津波)
- ・比較的発生頻度の高い津波(L1津波)

本市の防災マップでは、宮崎県による“最大クラスの津波”を想定した津波浸水想定を示しており、市民の避難対策の基礎資料となるものです(詳しくは右に示す留意すべき点を参照してください)。

浸水域 海岸線から陸地に津波が遡上することが想定される区域。
浸水深 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ(深さによる色分けはP18参照)。



重要 津波浸水想定のお留意すべき点

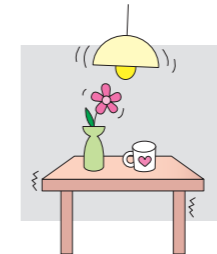
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
- 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。

3-3 津波発生時の心得 10カ条

海岸や川の近くで地震の揺れを感じたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めても間に合いません。

1 小さな揺れでも油断禁物!

小さな揺れの地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が来襲することがあります。



6 満潮の時は特に要注意

水位が高くなっているのので、被害が大きくなります。



2 高い場所へ避難する

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



7 正しい情報を聞く

テレビ、ラジオ、防災行政無線、防災ラジオ、市ホームページなどで正しい情報を入手しましょう。



3 津波のスピードは速い!

「注意報」や「警報」が出る前に来る津波もあります。強い揺れを感じたら、津波被害のおそれのある地区の住民は、直ちに避難しましょう。



8 河川に近づかない

津波は河川をさかのぼり、内陸深くまで進入することもあります。河川には絶対に近づかないようにしましょう。標高の低い河川周辺は特に危険です。



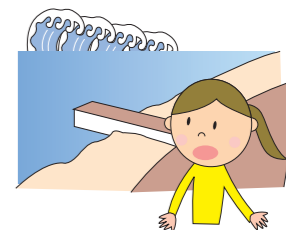
4 津波はくり返し来る!

津波は2回、3回とくり返し襲ってきます。また、第1波が最大の高さになるとは限りません。波が落ちつくまでは注意しましょう。



9 海岸に近づかない

注意報、警報が解除されるまで海辺には絶対に近づかないようにしましょう。



5 引き潮がなくても注意

震源付近の地形によっては、引き潮が起こることなく最初に大きな波が押し寄せる場合もあります。



10 海上では

船舶は無線などの情報ですみやかに行動しましょう。

